
白 浜 町
人 口 ビ ジ ョ ン



平成 28 年 2 月

白 浜 町

目 次

1. はじめに	1
(1) 白浜町人口ビジョンの目的	1
(2) 国の長期ビジョン、総合戦略	1
(3) 和歌山県の長期人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略	2
2. 白浜町の人口の現状	3
(1) 人口の推移	3
(2) 人口ピラミッド	4
(3) 出生・死亡、転入・転出の推移	5
(4) 合計特殊出生率の推移	6
(5) 総人口の推移に与えてきた自然増減及び社会増減の影響	7
(6) 年齢階級別純移動数の時系列分析	8
(7) 転入元・転出先の状況	9
(8) 5歳階級別の転入・転出者数	10
3. 将来展望の導出に係るアンケート調査	11
(1) 町内に在住する高校生へのアンケート調査	11
(2) 過去5年間の町転入者へのアンケート調査	12
4. 目指すべき将来の方向	13
(1) 白浜町の人口に関する特徴	13
(2) 白浜町が目指すべき将来の方向	13
5. 人口の将来展望	14
(1) 将来展望人口の導出	14
(2) 白浜町における人口の将来展望	16

1. はじめに

(1) 白浜町人口ビジョンの目的

近年、全国的に急速な人口減少が進んでいる中で、この問題を克服し、地方創生を成し遂げることを目的に、平成 26 年 11 月 28 日に「まち・ひと・しごと創生法」が施行されました。これに基づき、国は 12 月 27 日に、今後の「地方創生」の方向性を示した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと総合戦略」を策定しました。

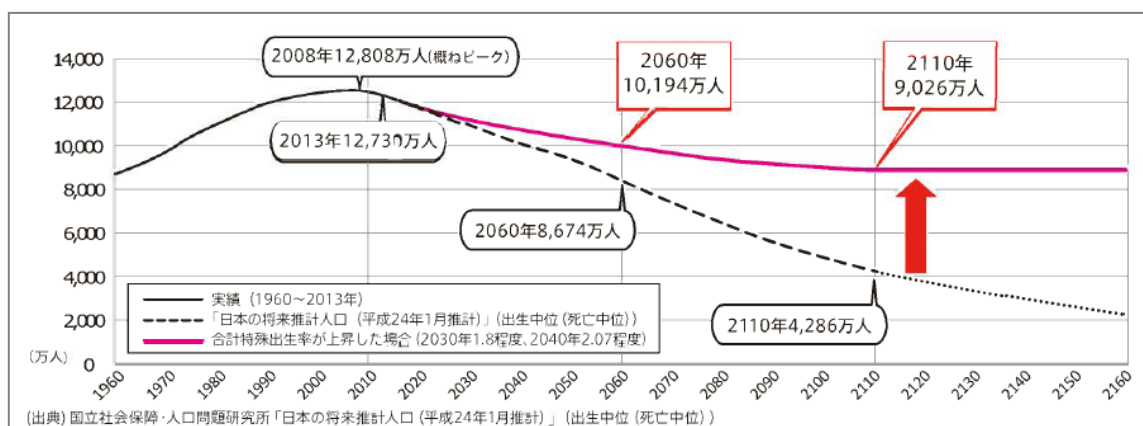
「白浜町人口ビジョン」は、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の趣旨に基づき、本町における人口の現状分析を行い、その課題を町民との意識の共有を図るとともに、人口に関しての今後目指すべき方向性と将来展望を示すことを目的とします。

(2) 国の長期ビジョン、総合戦略

日本の総人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計において 2060 年で 8,674 万人とされています。

それに対して国の長期ビジョン及び総合戦略では、以下の 4 つの基本目標を立て、2060 年に 1 億人程度の人口を確保することを掲げています。

- 基本目標①：地方における安定した雇用を創出する
- 基本目標②：地方への新しいひとの流れをつくる
- 基本目標③：若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 基本目標④：時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する



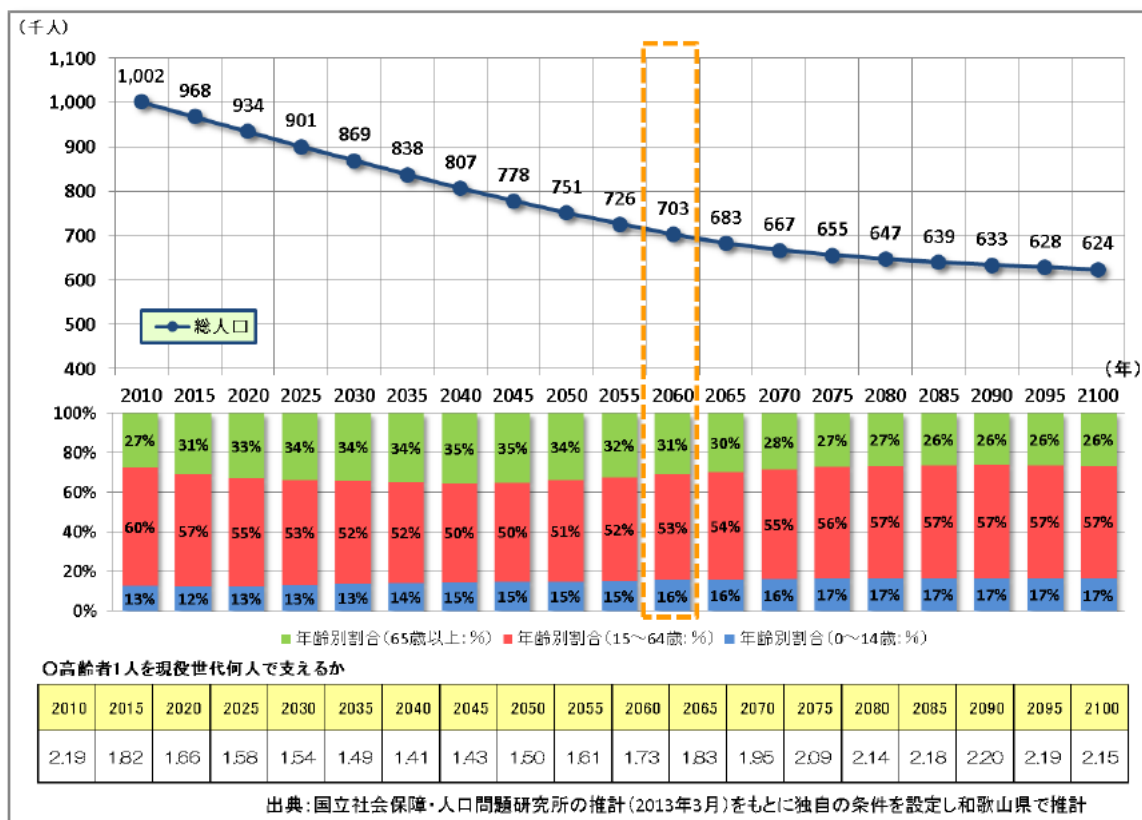
(資料：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、
まち・ひとしごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」)

(3) 和歌山県の長期人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略

和歌山県の総人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計において 2060 年で 52.5 万人とされています。

それに対して和歌山県の長期人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略では、以下の5つの基本目標を立て、2060年に高齢者1人を現役世代2人で支える人口形態である70.3万人の人口を確保することを掲げています。

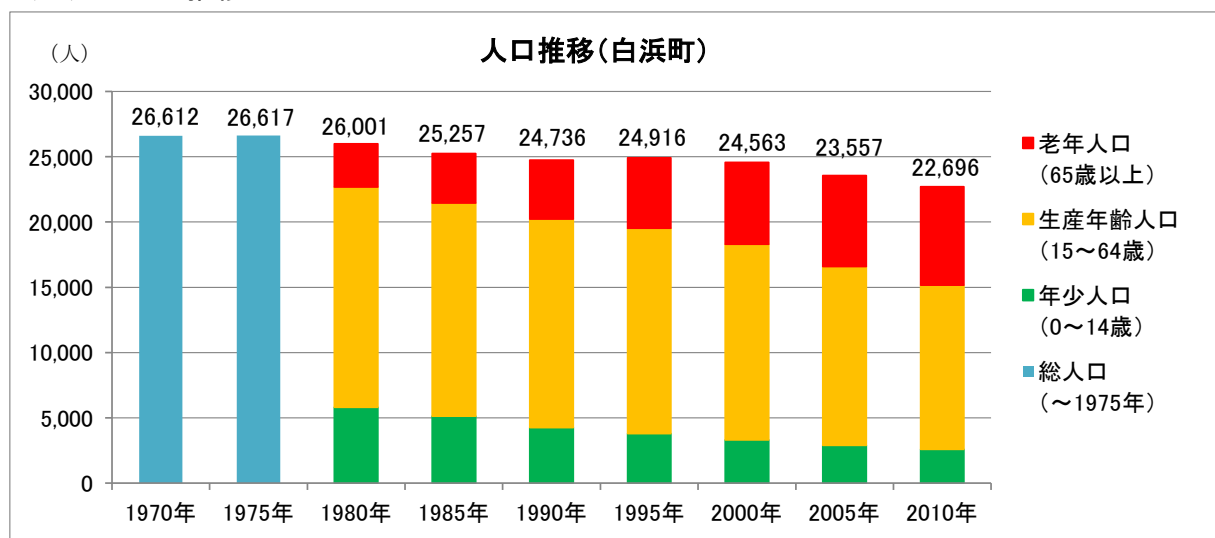
- 基本目標①：安定した雇用を創出する
- 基本目標②：和歌山県への新しい「人の流れ」を創造する
- 基本目標③：少子化をくい止める
- 基本目標④：安全・安心な暮らしを実現する
- 基本目標⑤：時代に合った地域をつくる



(資料：和歌山県、和歌山県長期人口ビジョン)

2. 白浜町の人口の現状

(1) 人口の推移

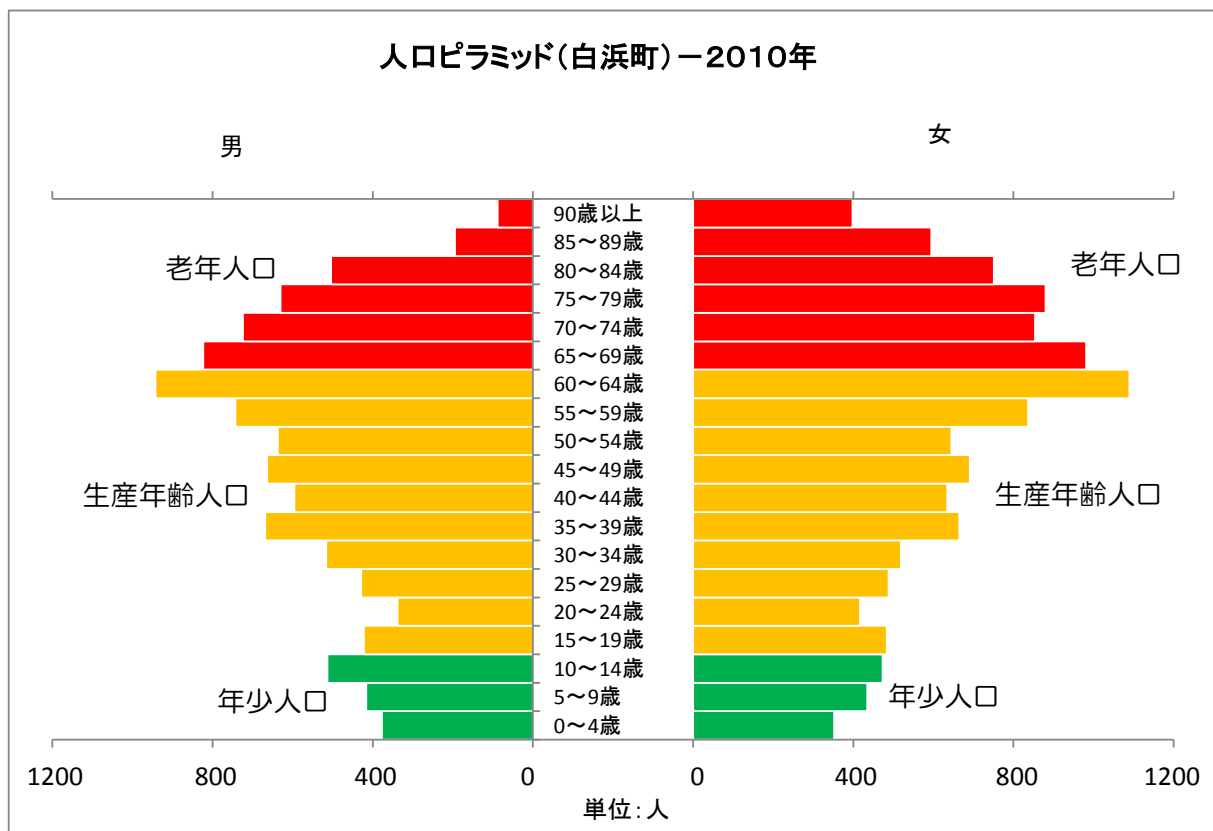
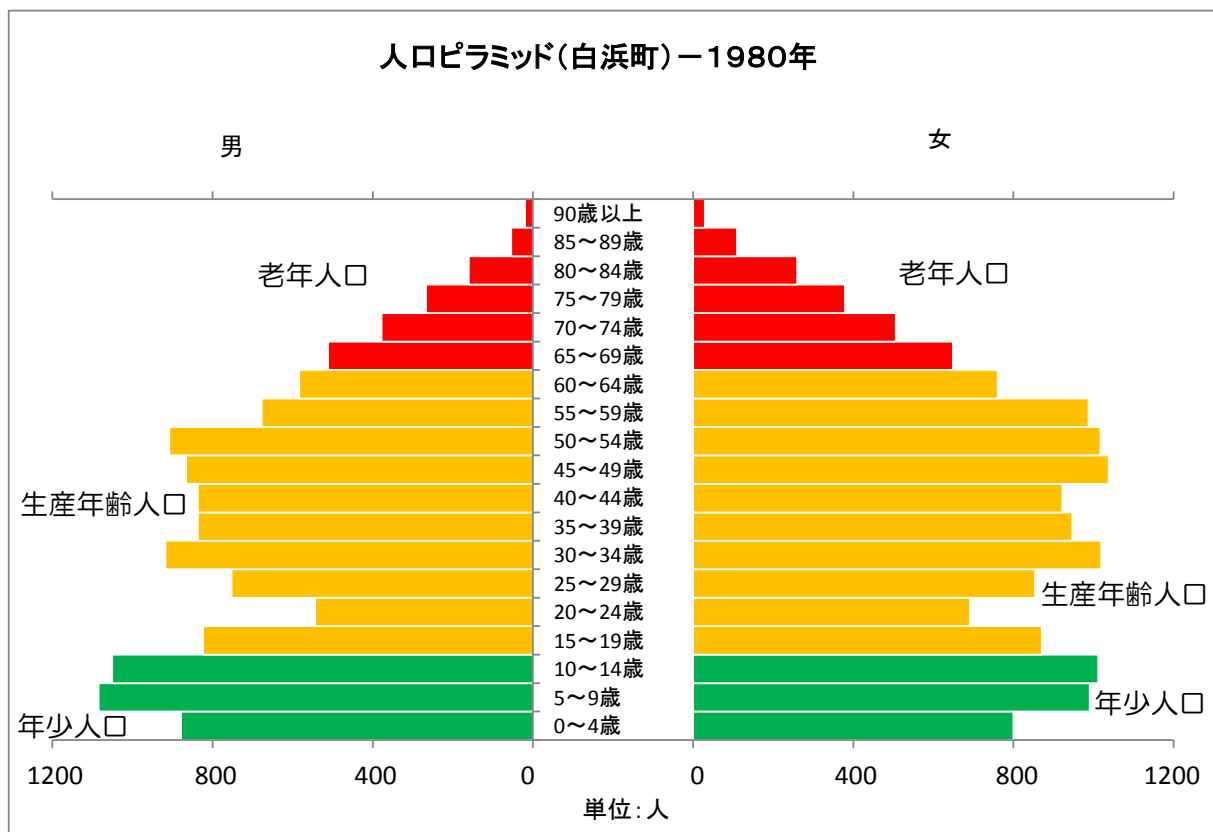


(資料:「国勢調査」)

	総人口 (人)	年少人口 (0~14歳)		生産年齢人口 (15~64歳)		老年人口 (65歳以上)	
		人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)
1970年	26,612	—	—	—	—	—	—
1975年	26,617	—	—	—	—	—	—
1980年	26,001	5,818	22.4%	16,859	64.8%	3,324	12.8%
1985年	25,257	5,134	20.3%	16,332	64.7%	3,791	15.0%
1990年	24,736	4,250	17.2%	15,987	64.6%	4,499	18.2%
1995年	24,916	3,788	15.2%	15,731	63.1%	5,397	21.7%
2000年	24,563	3,310	13.5%	14,999	61.1%	6,254	25.5%
2005年	23,557	2,902	12.3%	13,683	58.1%	6,972	29.6%
2010年	22,696	2,578	11.4%	12,588	55.5%	7,530	33.2%

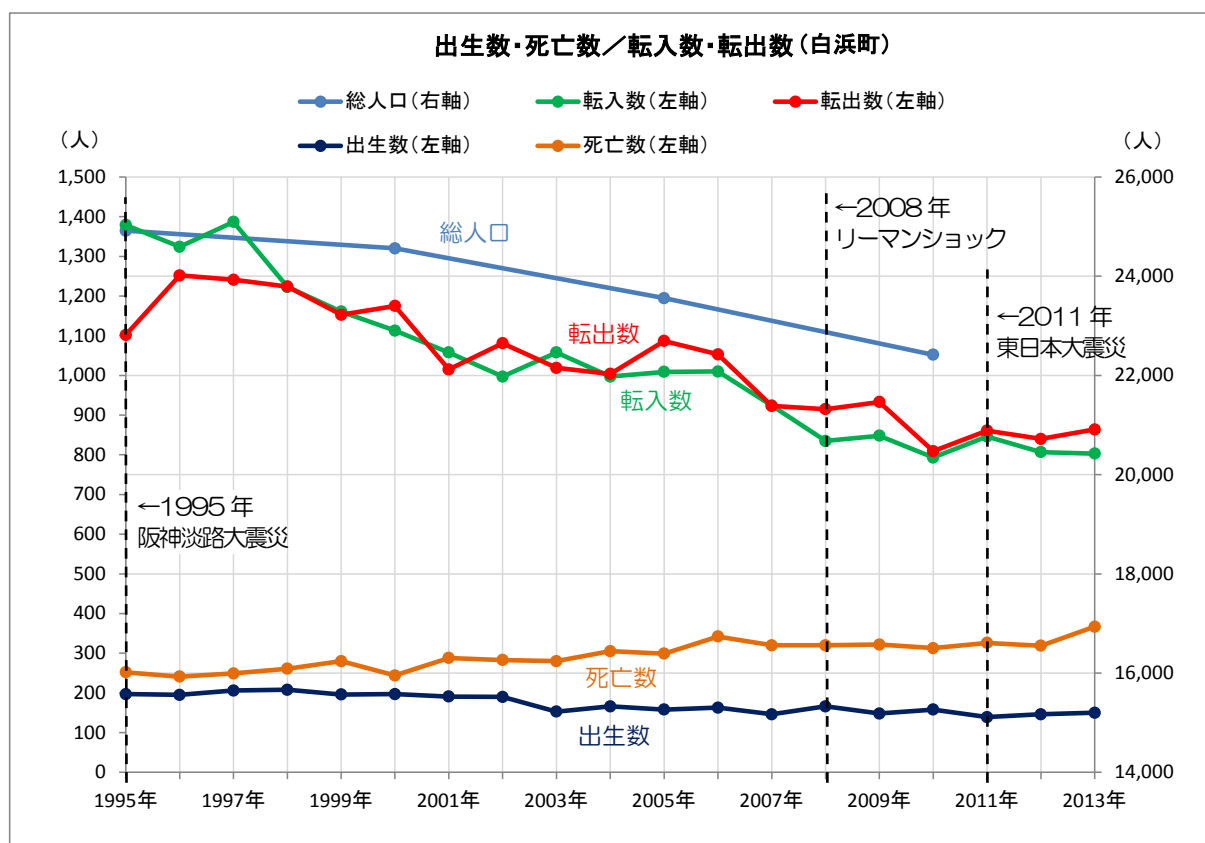
- ・白浜町の総人口は、1975年の26,617人をピークに、以降は減少傾向にあり、2010年時点で22,696人となっています。
- ・年少人口、生産年齢人口が減少傾向にあるのに対して、老年人口は増加しており、少子高齢化が進行しています。

(2) 人口ピラミッド



・2010年と1980年を比較すると、老年人口が増加し、年少人口が大幅に減少していることから、少子高齢化が進行しているといえます。

(3) 出生・死亡、転入・転出の推移



(単位:人)	総人口	転入数	転出数	出生数	死亡数
1995年	24,916	1,379	1,102	197	252
1996年	—	1,324	1,252	195	241
1997年	—	1,387	1,241	206	249
1998年	—	1,223	1,224	208	261
1999年	—	1,161	1,153	196	280
2000年	24,563	1,113	1,175	197	244
2001年	—	1,058	1,015	191	288
2002年	—	997	1,081	190	283
2003年	—	1,058	1,019	153	280
2004年	—	997	1,004	166	305
2005年	23,557	1,009	1,087	158	299
2006年	—	1,010	1,053	163	342
2007年	—	924	923	146	320
2008年	—	835	915	166	320
2009年	—	848	933	148	322
2010年	22,418	793	809	158	313
2011年	—	846	861	139	326
2012年	—	807	840	146	319
2013年	—	803	864	150	367

(資料:「国勢調査」、「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」)

※総人口は、「不詳」を除く

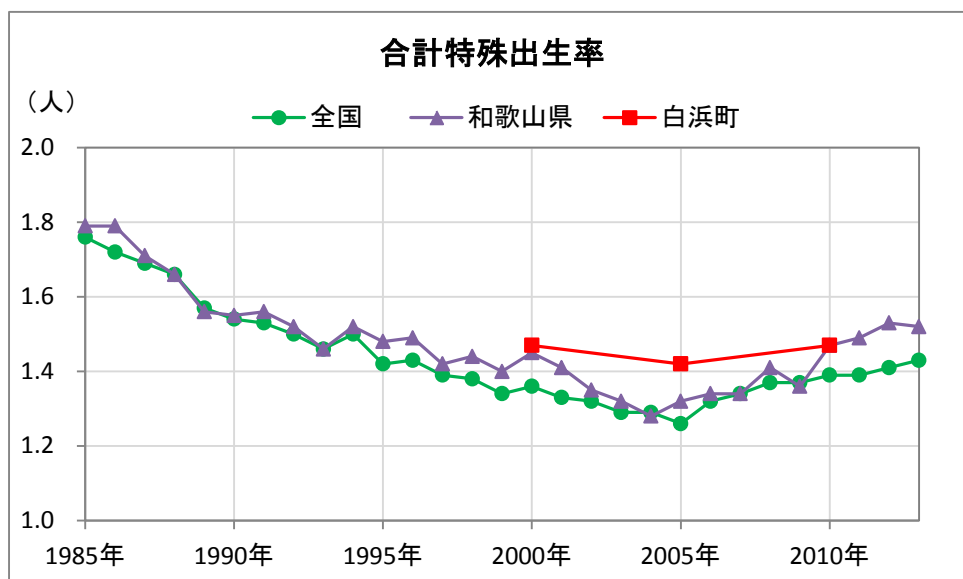
《出生数・死亡数》

- ・1995年以降のすべての年において死亡数が出生数を上回っており、差は年々広がってきています。

《転入数・転出数》

- ・転入数、転出数ともに減少傾向にあります。
- ・2004年以降は転出数が転入数を上回っています。

(4) 合計特殊出生率の推移



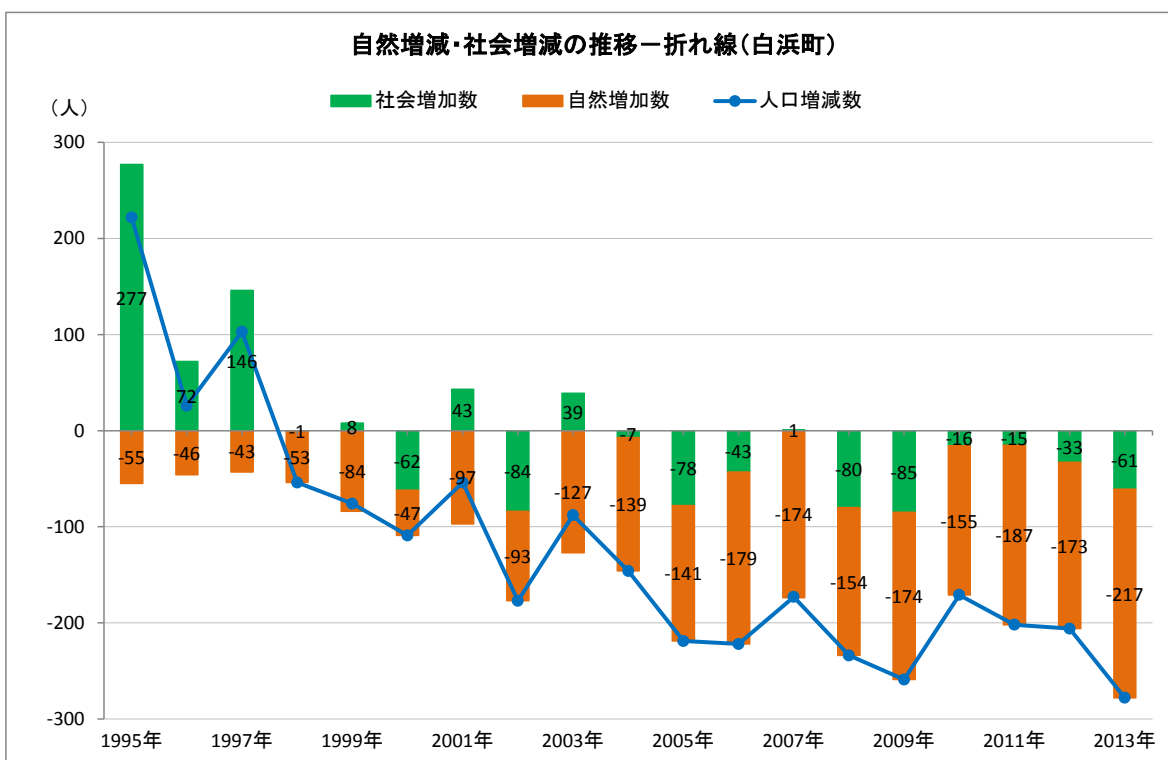
(単位:人)	全国	和歌山県	白浜町
1985年	1.76	1.79	—
1986年	1.72	1.79	—
1987年	1.69	1.71	—
1988年	1.66	1.66	—
1989年	1.57	1.56	—
1990年	1.54	1.55	—
1991年	1.53	1.56	—
1992年	1.5	1.52	—
1993年	1.46	1.46	—
1994年	1.50	1.52	—
1995年	1.42	1.48	—
1996年	1.43	1.49	—
1997年	1.39	1.42	—
1998年	1.38	1.44	—
1999年	1.34	1.4	—

(単位:人)	全国	和歌山県	白浜町
2000年	1.36	1.45	1.47
2001年	1.33	1.41	—
2002年	1.32	1.35	—
2003年	1.29	1.32	—
2004年	1.29	1.28	—
2005年	1.26	1.32	1.42
2006年	1.32	1.34	—
2007年	1.34	1.34	—
2008年	1.37	1.41	—
2009年	1.37	1.36	—
2010年	1.39	1.47	1.47
2011年	1.39	1.49	—
2012年	1.41	1.53	—
2013年	1.43	1.52	—

(資料:「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」、「人口動態保険所・市町村別統計」)

- ・合計特殊出生率は、白浜町、和歌山県平均、全国平均いずれも 2005 年ごろまで減少傾向となり、その後増加傾向へと転じています。
- ・白浜町、和歌山県平均、全国平均いずれも人口を長期的に一定に保てる水準である 2.07 を大きく下回っています。
- ・白浜町の合計特殊出生率は、全国平均の値よりも高くなっています。また、2010 年時点で和歌山県平均と同等となっています (1.47)。

(5) 総人口の推移に与えてきた自然増減及び社会増減の影響

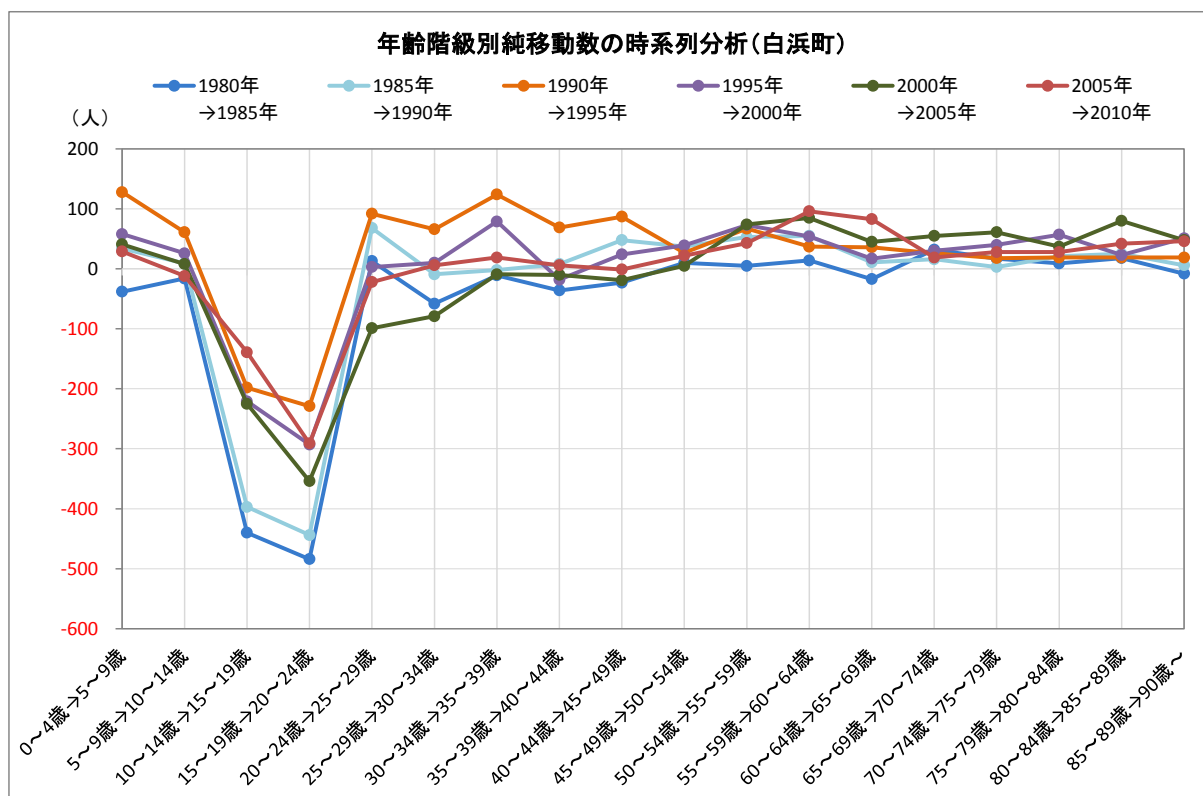


(単位:人)	自然増加数	社会増加数	人口増減数
1995年	-55	277	222
1996年	-46	72	26
1997年	-43	146	103
1998年	-53	-1	-54
1999年	-84	8	-76
2000年	-47	-62	-109
2001年	-97	43	-54
2002年	-93	-84	-177
2003年	-127	39	-88
2004年	-139	-7	-146
2005年	-141	-78	-219
2006年	-179	-43	-222
2007年	-174	1	-173
2008年	-154	-80	-234
2009年	-174	-85	-259
2010年	-155	-16	-171
2011年	-187	-15	-202
2012年	-173	-33	-206
2013年	-217	-61	-278

(資料:「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」)

- ・1997年までは社会増が自然減の数を上回っているため、総人口は増加傾向にありましたが、その後は一部の年を除いて社会要因、自然要因ともに減少が上回り、総人口は減少に転じています。
- ・人口減の要因は、自然要因の影響が年々大きくなっています。

(6) 年齢階級別純移動数の時系列分析



(単位:人口)	1980年 →1985年	1985年 →1990年	1990年 →1995年	1995年 →2000年	2000年 →2005年	2005年 →2010年
0～4歳→5～9歳	-38	34	128	58	41	29
5～9歳→10～14歳	-16	9	61	26	8	-12
10～14歳→15～19歳	-440	-397	-198	-221	-225	-139
15～19歳→20～24歳	-484	-444	-229	-293	-354	-291
20～24歳→25～29歳	13	68	92	3	-99	-22
25～29歳→30～34歳	-58	-9	66	10	-79	6
30～34歳→35～39歳	-11	-2	124	79	-9	19
35～39歳→40～44歳	-36	8	69	-18	-10	6
40～44歳→45～49歳	-23	48	87	24	-19	-1
45～49歳→50～54歳	10	37	27	39	5	22
50～54歳→55～59歳	5	53	67	73	74	43
55～59歳→60～64歳	14	55	37	54	85	96
60～64歳→65～69歳	-17	11	36	17	45	83
65～69歳→70～74歳	32	16	26	30	55	19
70～74歳→75～79歳	17	3	18	40	61	28
75～79歳→80～84歳	9	21	19	57	37	28
80～84歳→85～89歳	18	25	19	23	80	42
85～89歳→90歳～	-8	6	19	51	48	46

(資料:「国勢調査」、「住民基本台帳人口移動報告」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成)

- ・すべての調査年において概ね同傾向にあります。
- ・10歳代前半から10歳代後半にかけて及び10歳代後半から20歳代前半にかけて、いずれの調査年においても転出超過数が多くなっており、その理由としては、高校・大学等への進学や就職を機に白浜町を離れたことが考えられます。この年齢層の転出超過数は、1980年から1985年が最も多く、以降減少傾向にあります。

(7) 転入元・転出先の状況

《2012年 白浜町への転入》

転入元	総数	割合
総転入者数	804	100.0%
和歌山県内	418	52.0%
田辺市	180	22.4%
和歌山市	65	8.1%
上富田町	50	6.2%
県外	386	48.0%
大阪府	151	18.8%

《2012年 白浜町からの転出》

転出先	総数	割合
総転出者数	853	100.0%
和歌山県内	514	60.3%
田辺市	254	29.8%
上富田町	94	11.0%
和歌山市	59	6.9%
県外	339	39.7%
大阪府	130	15.2%
兵庫県	45	5.3%

《2013年 白浜町への転入》

転入元	総数	割合
総転入者数	761	100.00%
和歌山県内	393	51.6%
田辺市	192	25.2%
上富田町	59	7.8%
和歌山市	48	6.3%
県外	368	48.4%
大阪府	149	19.6%

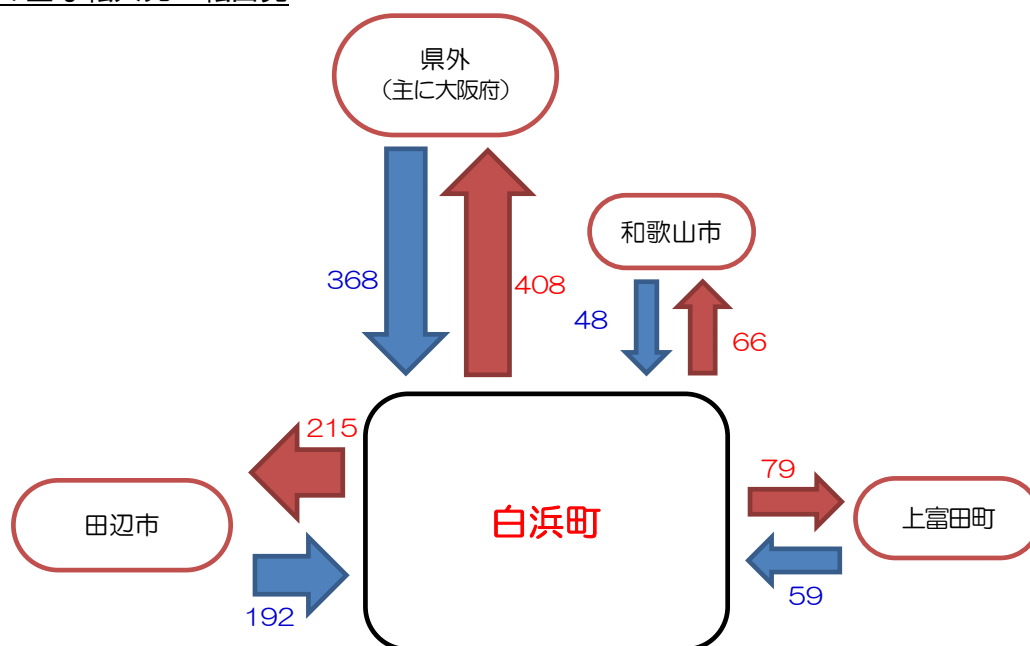
《2013年 白浜町からの転出》

転出先	総数	割合
総転入者数	857	100.0%
和歌山県	449	52.4%
田辺市	215	25.1%
上富田町	79	9.2%
和歌山市	66	7.7%
県外	408	47.6%
大阪府	173	20.2%

2013年

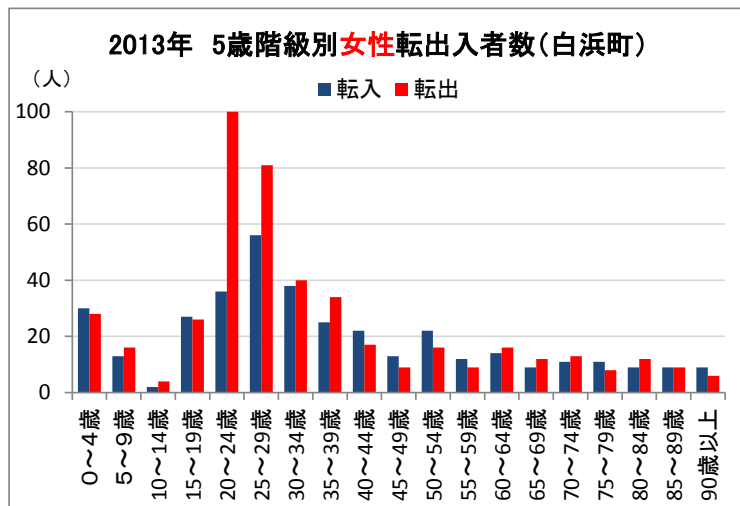
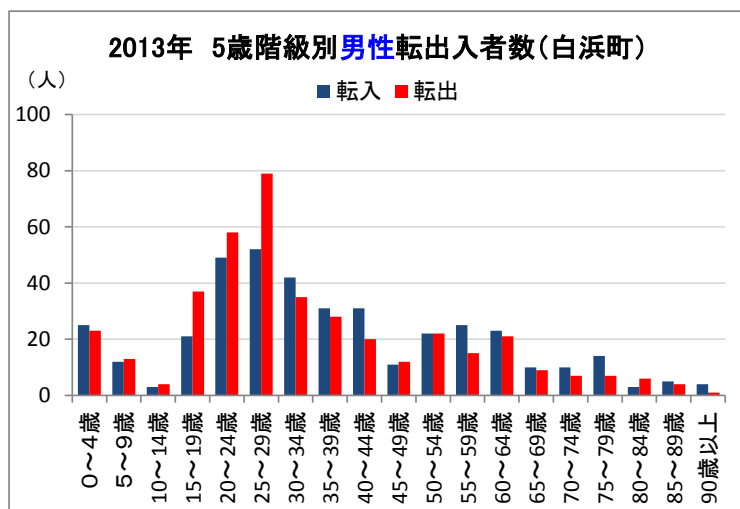
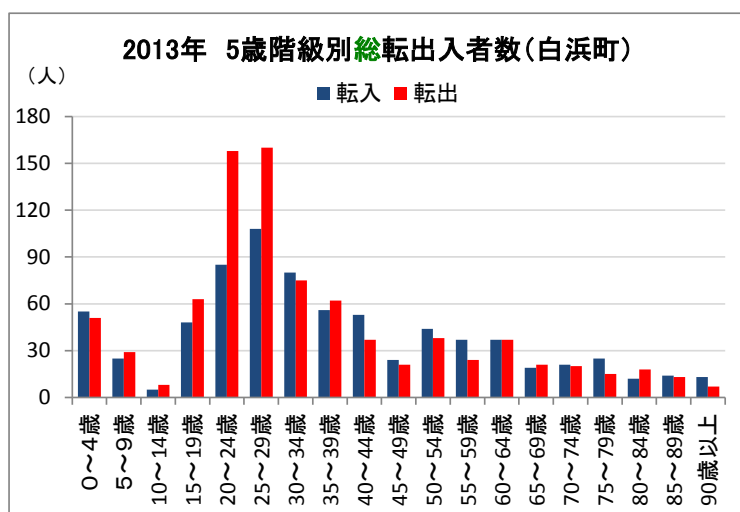
(資料：住民基本台帳人口移動報告)

白浜町の主な転入元・転出先



- ・白浜町への転入者数は、2012年が804人、2013年が761人となっています。
- ・総転入者数の50%程度が和歌山県内からであり、2013年は田辺市が25.2%で最も多く、次いで上富田町が7.8%、和歌山市が6.3%の順となっています。
- ・白浜町からの転出者数は、2012年が853人、2013年が857人となっています。
- ・全体の50~60%程度が和歌山県内への転出であり、2013年は田辺市が25.1%で最も多く、次いで上富田町が9.2%、和歌山市が7.7%の順となっています。

(8) 5歳階級別の転入・転出者数



- ・総数、男性、女性すべてにおいて、20～24歳、25～29歳で転出超過が多く、また、30歳以上は転出・転入の数がほぼ同等となっています。
- ・20～24歳は進学や就職による転出、25～29歳は結婚等をきっかけとした転出が多くなっていると考えられます。
- ・特に、女性は、男性と比べて20～24歳の転出数と転入者の差が大きく、約60人の転出超過となっています。

(資料：住民基本台帳人口移動報告)

3. 将来展望の導出に係るアンケート調査

(1) 町内に在住する高校生へのアンケート調査

①調査目的

白浜町の人口の社会増・自然増につなげるために、若い人が白浜町にとどまる、または一度出ても戻りたくなる環境を形成するには何が必要かを導き出すことを目的に、町内に在住する 591 名の高校生を対象にアンケート調査を実施しました。

②調査結果

【配布・回収状況】

- ・対象：町内に在住する高校生
- ・配布日：2015年7月15日
- ・配布数：591通
- ・回収数：113通
- ・回収率：19.1%

【各設問の単純集計結果概要】

- ◆回答者は、男女ほぼ半数ずつ、学年も概ね1年、2年、3年が同じ程度となっています。
- ◆今後の町への居留意向としては、「わからない」が約35%で最も多いものの、町への居留意向がある人（「住み続けたい」、「どちらかと言えば住み続けたい」、「進学で町外に出た後、町に戻る」、「就職で町外に出た後、町に戻る」）も約45%を占めています。
- ◆卒業後に町に住む・戻ってくるための条件として、「希望の職種」があることが最も多く、次いで「住むところ」、「買い物環境」の順となっています。一方で、半数程度が町内にどんな仕事があるかよく知らないと回答しています。
- ◆町への愛着や町の住みやすさについて70%以上の人が好意的な回答としています。
- ◆重点的に取り組むべき施策として、「防災に対する安心感があるまち」が最も多くなっています。



- ◇町への居留意向や町への愛着、住みやすさに対して好意的な回答する高校生は多いものの、今後も町に住む・戻ってくる上で就業面について不安をもつ回答が多くなっています。
- ◇今後も町に住む・戻ってくる事が可能となる環境を実現するためには、町内の仕事に関する情報発信やより多様な職種が誘致できる環境整備が考えられます。

(2) 過去5年間の町転入者へのアンケート調査

①調査目的

将来の社会増・自然増につなげるための主要なターゲットとなる若者ファミリー世帯に白浜町に住んでもらうために、どのような施策が必要かを導き出すことを目的に、過去5年間に白浜町に転入してきた20歳以上の男女1,500名にアンケート調査を実施しました。

②調査結果

【配布・回収状況】

- ・対象：過去5年間に白浜町に転入してきた20歳以上の男女
- ・配布日：2015年7月15日
- ・配布数：1500通
- ・回収数：311通
- ・回収率：20.7%

【各設問の単純集計結果概要】

- ◆転入の理由は、「職場の都合」、「結婚」、「住宅事情」が主であり、他の市町村と比較せずに転入している人が多くなっています。
- ◆転居の際に重視した点は、「自然環境の豊かさ」、「良好な住宅物件」、「通勤・通学の利便性」が多く、実際に住んでみての評価としては、「自然環境の豊かさ」、「白浜町のイメージの良さ」については良い評価、「通勤・通学の利便性」については悪い評価が多くなっています。
- ◆町への愛着や町の住みやすさについては70%程度の人が好意的な回答としています。
- ◆子どもの人数については、現実的な人数、理想の人数のいずれも「2人」が多く、現実と理想の差がない人が最も多くなっていますが、現実が理想よりも少ない人も30%以上となっています。
- ◆子どもの人数について、現実が理想よりも少ない理由としては、「お金がかかりすぎる」が最も多くなっていますが、「自分の仕事に差し支える」という回答も見られます。
- ◆重点的に取り組むべき施策として、「子育てしやすいまち」が最も多く、次いで「保健・医療・福祉が充実したまち」、「防災に対する安心感があるまち」の順となっています。



- ◇「職場の都合」で転入している人が多く、転居の際に「通勤・通学の利便性」を重視していますが、「通勤・通学の利便性」への評価は決して良いとは言えません。転入後の満足度を高めていくためには、「通勤・通学の利便性」向上に取り組むことが考えられます。
- ◇出産・子育てについては、理想とする子どもの人数よりも現実的な子どもの人数が少ない人が一定割合いること、また重点的に取り組むべき施策として「子育てしやすいまち」が最も多いことから、一層の支援を検討する必要があります。支援の内容としては、経済的なものだけでなく、出産、子育てと仕事を両立しやすい環境整備などが考えられます。

4. 目指すべき将来の方向

(1) 白浜町の人口に関する特徴

①若者層の近隣市町や大都市圏への流出

- ・男性、女性ともに、多くの10代、20代の若者層が進学や就職、結婚などを機に大阪を中心とした大都市圏や近隣市町（田辺市・上富田町）へ転出し、その後も町へ戻ってきていません。
- ・町内に在住する高校生を対象としたアンケート結果では、今後も町に住み続けるもしくは戻ってくることを考えるとき、町での就業面に不安をもつ人が多くなっています。

②自然要因による人口減少の進行

- ・近年、自然要因による人口の減少が年々進行しており、それに伴い町の総人口の減少が急速に進んでいます。
- ・町内の合計特殊出生率については、2005年まで減少傾向にありましたが、その後は増加に転じ、現在は和歌山県の平均と同程度にあるものの、人口規模が長期的に維持される水準を大きく下回る状態が続いています。
- ・アンケートの結果では、「お金がかかりすぎる」「自分の仕事に差し支える」などの理由から、理想の子どもの数よりも、現実の子どもの数が下回っている人が多くなっています。

③転入者の白浜町のイメージへの高い評価

- ・町への転入者を対象としたアンケートの結果では、豊富な観光資源を背景としたブランド力などによる白浜町のイメージの良さに対して評価が高くなっています。

③居住者のまちへの高い愛着心

- ・アンケートの結果では、町内在住の高校生、過去5年間の町転入者ともに町への愛着や町の住みやすさについて好意的な回答が多くなっています。

(2) 白浜町を目指すべき将来の方向

- ・中高年層については安定した転入があるのに対して、若者層が多く大都市圏や近隣市町へ流出していることが、社会要因の減少だけでなく、自然要因の減少に大きく影響しています。
- ・そのため、町への高い愛着心や町のブランド力を活かして、若者層が町にとどまれる、戻ってこられる環境を形成するとともに、安心して結婚・出産・子育てができるような環境の形成が重要となっています。

5 . 人口の将来展望

(1) 将来展望人口の導出

①推計パターン

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局による手引き（「地方人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」の策定に向けた人口動向分析・将来人口推計について）で示される4パターンの人口推計に加え、前述の白浜町の目指すべき将来の方向を踏まえて町独自で条件設定した推計パターンの人口推計の結果から、白浜町の人口の将来を展望します。

パターン	想定
パターン1	全国の移動率が、今後一定程度縮小すると仮定した推計（社人研推計準拠）
パターン2	全国の総移動数が、平成22(2010)～27(2015)年の推計値と概ね同水準でそれ以降も推移すると仮定した推計（日本創成会議推計準拠）
パターン3	合計特殊出生率が人口置換水準（人口を長期的に一定に保てる水準の2.1）まで上昇したとした場合の推計（国 手引き シミュレーション1）
パターン4	合計特殊出生率が人口置換水準（2.1）まで上昇し、かつ人口移動が均衡したとした場合（転入・転出数が同数となり、移動がゼロとなった場合）の推計（国 手引き シミュレーション2）
パターン5	合計特殊出生率が人口置換水準（2.1）まで上昇し、社人研推計をベースに若者層（10～39歳）の移動について、現在よりも進学・住み替え等による転出を減らし、町へ戻ってくる・入ってくる人が増えると想定し、純移動率を設定した場合の推計（町独自推計）

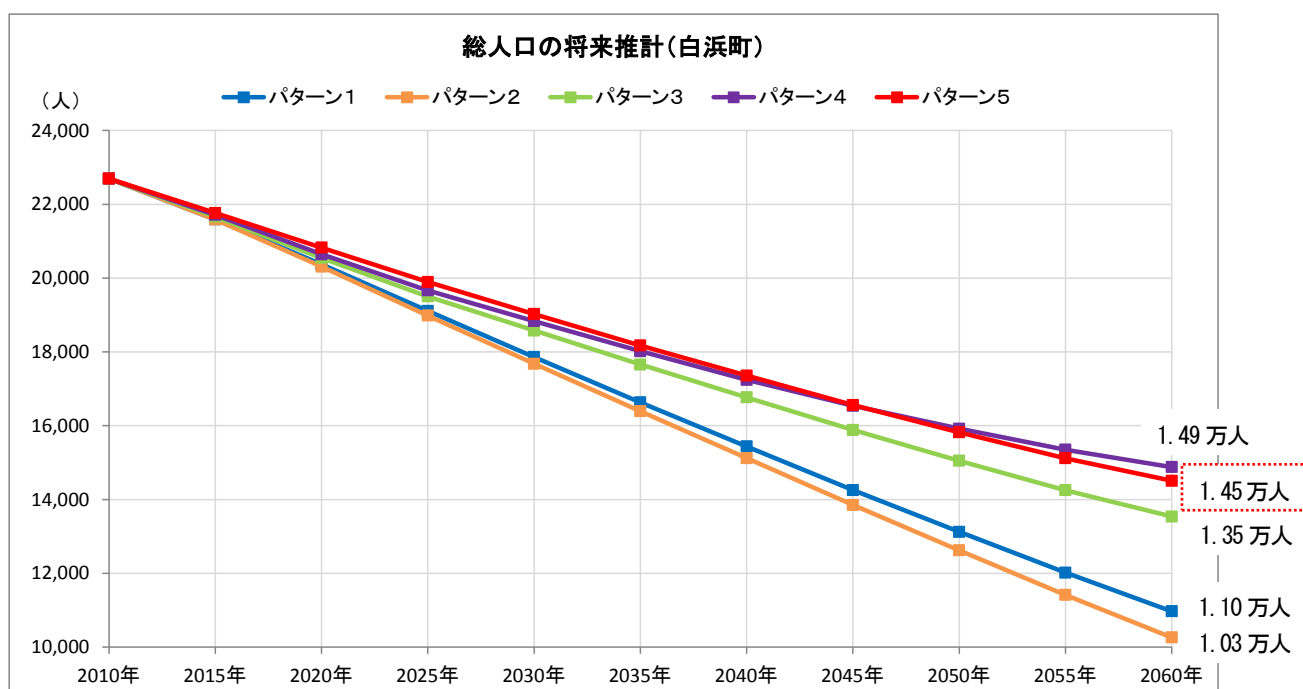
②出生・死亡、移動についての考え方

各パターンにおける出生・死亡、移動についての考え方は、以下のとおりです。

	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
出生	<ul style="list-style-type: none"> 2010年の全国の子ども女性比（15～49歳女性人口に対する0～4歳人口の比）と各市町村の子ども女性比との比が2015年以降一定と仮定 		<ul style="list-style-type: none"> 合計特殊出生率が →2025年に国民の希望が実現した場合の出生率（国民希望出生率）の1.8まで →2030年に人口置換水準の2.1まで上昇すると仮定 		<ul style="list-style-type: none"> 合計特殊出生率が →2020年に国民の希望が実現した場合の出生率（国民希望出生率）の1.8まで →2030年に人口置換水準の2.1まで上昇すると仮定
死亡	<ul style="list-style-type: none"> 全国と都道府県の2005年→2010年の生残率の比から算出される生残率を適用 60～64歳→65～69歳以上については、上述に加えて、県と町の2000年→2005年の生残率の比から算出される生残率を適用 				
移動	<ul style="list-style-type: none"> 2005～2010年の国勢調査（実績）に基づく純移動率が、2015～2020年までに定率で0.5倍に縮小し、その後はその値を2035年以降一定と仮定 	<ul style="list-style-type: none"> 全国の移動総数が、社人研の2010～2015年の推計値から縮小せずに、2035年以降概ね同水準で推移すると仮定（社人研推計に比べて純移動率（の絶対値）が大きくなる） 	<ul style="list-style-type: none"> パターン1と同様 	<ul style="list-style-type: none"> 純移動率がゼロ（均衡）で推移すると仮定 	<ul style="list-style-type: none"> 5年毎の純移動率を、社人研推計をベースとし、若者層※については現在よりも進学・住み替え等による転出を減らし、町へ戻ってくる・入ってくる人（転入）が増えると想定

※若者層：10～14歳→15～19歳、15～19歳→20～24歳、20～24歳→25～29歳、25～29歳→30～34歳、30～34歳→35～39歳と設定

(2) 白浜町における人口の将来展望



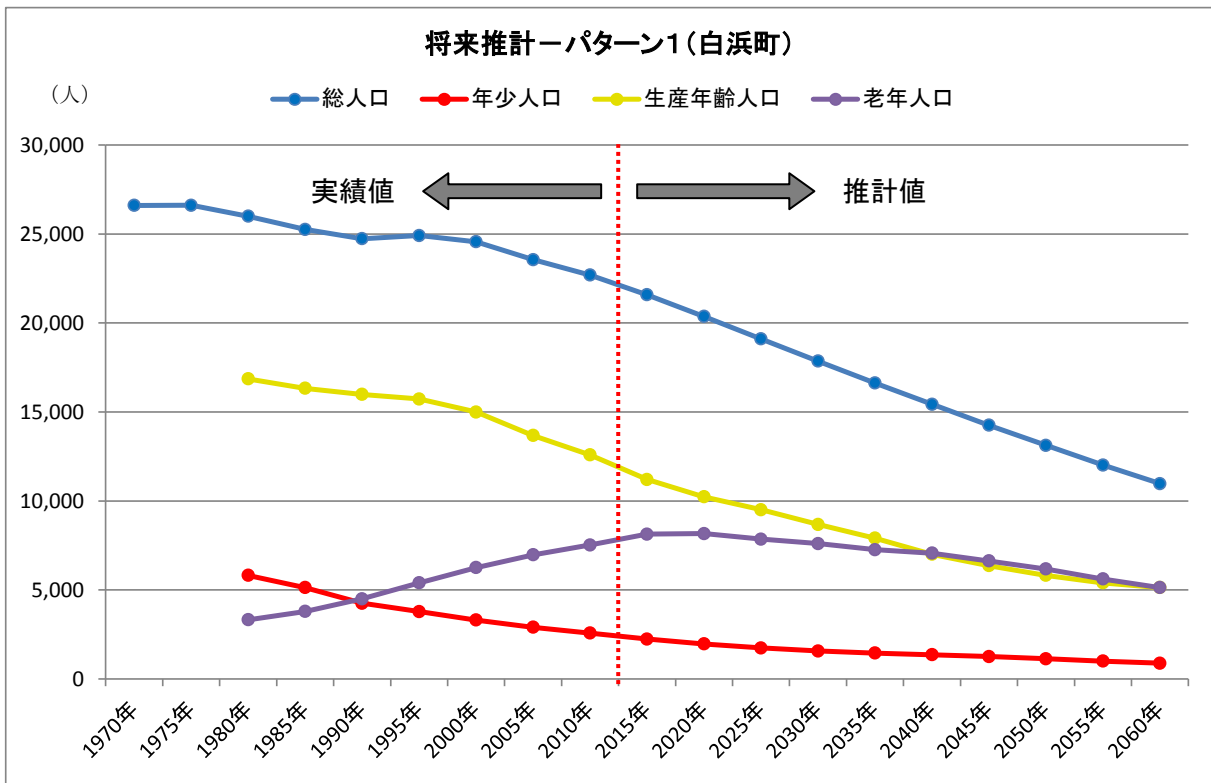
(資料: まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」)

(単位: 人)	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5
2010年	22,696	22,696	22,696	22,696	22,696
2015年	21,588	21,588	21,666	21,713	21,764
2020年	20,371	20,310	20,545	20,645	20,826
2025年	19,111	18,985	19,502	19,665	19,895
2030年	17,860	17,678	18,579	18,836	19,026
2035年	16,631	16,392	17,657	18,018	18,172
2040年	15,437	15,122	16,768	17,243	17,357
2045年	14,256	13,851	15,885	16,539	16,561
2050年	13,124	12,623	15,049	15,919	15,820
2055年	12,018	11,416	14,252	15,350	15,119
2060年	10,971	10,263	13,539	14,879	14,507

- ・社人研の推計 (パターン1) によると、今後、人口減少及び少子高齢化の問題に対して何の対策も講じなければ、白浜町の総人口は2060年で2010年の約半分にあたる10,971人になると予測されています。
- ・これに対して、自然減の抑制策を講じ、合計特殊出生率を一定の値まで向上させることで、2060年でパターン1の約1.23倍にあたる13,539人 (パターン3) となると予測されます。
- ・さらに、社会減の抑制策を講じ、若者層の転出割合を緩和させることで2060年にはパターン1の約1.32倍にあたる14,507人 (パターン5) に、人口移動が均衡した状態となることで約1.36倍にあたる14,879人 (パターン4) となると予測されます。

・本町では、人口減少及び少子高齢化の対策を講じることで、何も対策を講じない場合に対して和歌山県が和歌山県長期人口ビジョンで掲げる目標と同水準まで人口を増やすことになる、パターン5の **2060年に14,507人**を将来目標人口とします。

◆参考：人口の将来推計－パターン1（社人研推計準拠）



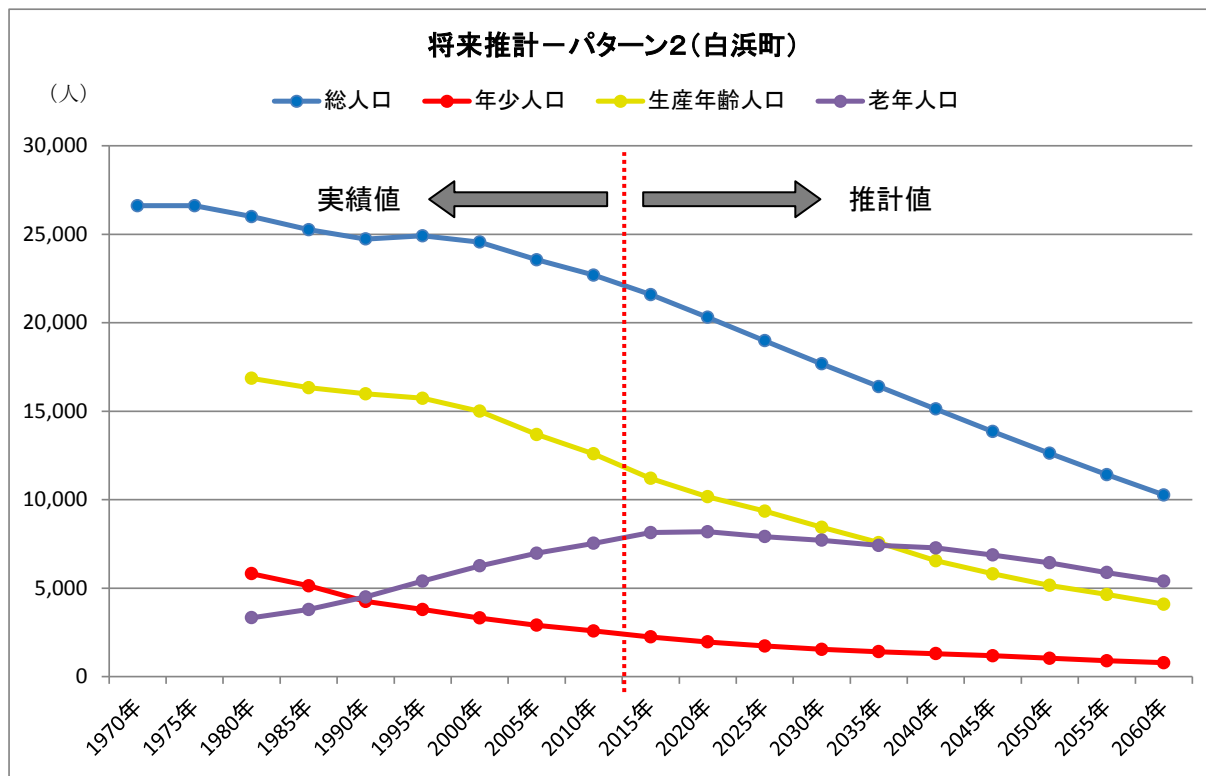
※2010年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値

	総人口 (人)	年少人口		生産年齢人口		老年人口	
		人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)
1970年	26,612	—	—	—	—	—	—
1975年	26,617	—	—	—	—	—	—
1980年	26,001	5,818	22.4%	16,859	64.8%	3,324	12.8%
1985年	25,257	5,134	20.3%	16,332	64.7%	3,791	15.0%
1990年	24,736	4,250	17.2%	15,987	64.6%	4,499	18.2%
1995年	24,916	3,788	15.2%	15,731	63.1%	5,397	21.7%
2000年	24,563	3,310	13.5%	14,999	61.1%	6,254	25.5%
2005年	23,557	2,902	12.3%	13,683	58.1%	6,972	29.6%
2010年	22,696	2,578	11.4%	12,588	55.5%	7,530	33.2%
2015年	21,588	2,244	10.4%	11,205	51.9%	8,140	37.7%
2020年	20,371	1,966	9.7%	10,236	50.2%	8,169	40.1%
2025年	19,111	1,742	9.1%	9,512	49.8%	7,857	41.1%
2030年	17,860	1,568	8.8%	8,683	48.6%	7,609	42.6%
2035年	16,631	1,453	8.7%	7,913	47.6%	7,265	43.7%
2040年	15,437	1,363	8.8%	7,008	45.4%	7,066	45.8%
2045年	14,256	1,255	8.8%	6,366	44.7%	6,634	46.5%
2050年	13,124	1,132	8.6%	5,816	44.3%	6,176	47.1%
2055年	12,018	1,001	8.3%	5,399	44.9%	5,619	46.8%
2060年	10,971	888	8.1%	5,133	46.8%	5,133	46.8%

推
計
値

- ・総人口は1975年の26,617人をピークに減少傾向にあり、2010年時点で22,696人、2060年で10,971人となっています。また、2010年から2060年までの減少率は約52%となっています。
- ・2010年から2060年までの減少率を3区分別にみると、年少人口（0～14歳）が65.5%と最も大きく、次いで生産年齢人口（15～64歳）が60.7%、老年人口（65歳～）が31.8%、と少子高齢化がかなり進むことが予測されます。

◆参考：人口の将来推計－パターン2（日本創成会議推計準拠）



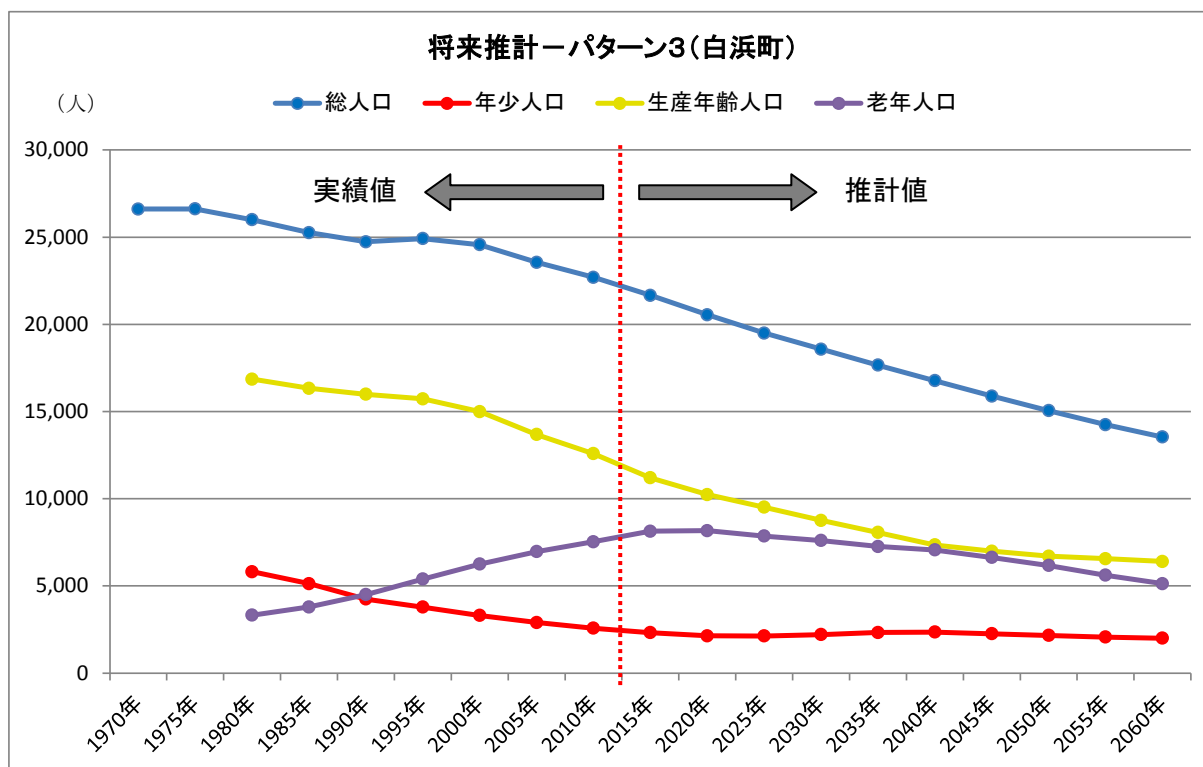
※2010年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値

	総人口 (人)	年少人口		生産年齢人口		老年人口	
		人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)
1970年	26,612	—	—	—	—	—	—
1975年	26,617	—	—	—	—	—	—
1980年	26,001	5,818	22.4%	16,859	64.8%	3,324	12.8%
1985年	25,257	5,134	20.3%	16,332	64.7%	3,791	15.0%
1990年	24,736	4,250	17.2%	15,987	64.6%	4,499	18.2%
1995年	24,916	3,788	15.2%	15,731	63.1%	5,397	21.7%
2000年	24,563	3,310	13.5%	14,999	61.1%	6,254	25.5%
2005年	23,557	2,902	12.3%	13,683	58.1%	6,972	29.6%
2010年	22,696	2,578	11.4%	12,588	55.5%	7,530	33.2%
2015年	21,588	2,244	10.4%	11,205	51.9%	8,140	37.7%
2020年	20,310	1,959	9.6%	10,164	50.0%	8,188	40.3%
2025年	18,985	1,725	9.1%	9,352	49.3%	7,908	41.7%
2030年	17,678	1,537	8.7%	8,437	47.7%	7,703	43.6%
2035年	16,392	1,406	8.6%	7,568	46.2%	7,418	45.3%
2040年	15,122	1,299	8.6%	6,552	43.3%	7,272	48.1%
2045年	13,851	1,174	8.5%	5,805	41.9%	6,872	49.6%
2050年	12,623	1,036	8.2%	5,154	40.8%	6,433	51.0%
2055年	11,416	898	7.9%	4,639	40.6%	5,879	51.5%
2060年	10,263	782	7.6%	4,094	39.9%	5,387	52.5%

推計値

- ・総人口は2060年で10,263人になると予測され、2010年から2060年までの減少率は約55%となっています。
- ・2010年から2060年までの減少率を3区分別にみると、年少人口（0～14歳）が69.7%と最も大きく、次いで生産年齢人口（15～64歳）が67.5%、老年人口（65歳～）が28.5%、と少子高齢化がかなり進むことが予測されます。

◆参考：人口の将来推計－パターン3（国手引き シミュレーション1）



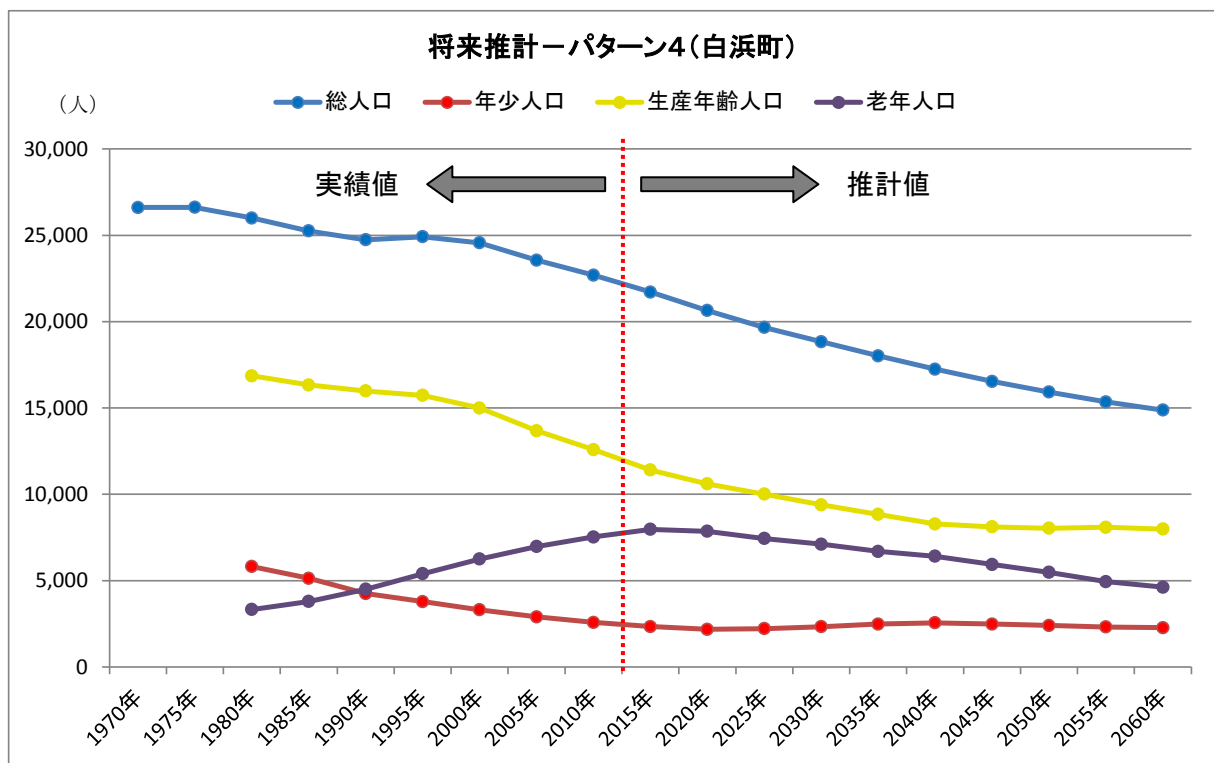
※2010年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値

	総人口 (人)	年少人口		生産年齢人口		老年人口	
		人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)
1970年	26,612	—		—		—	
1975年	26,617	—		—		—	
1980年	26,001	5,818	22.4%	16,859	64.8%	3,324	12.8%
1985年	25,257	5,134	20.3%	16,332	64.7%	3,791	15.0%
1990年	24,736	4,250	17.2%	15,987	64.6%	4,499	18.2%
1995年	24,916	3,788	15.2%	15,731	63.1%	5,397	21.7%
2000年	24,563	3,310	13.5%	14,999	61.1%	6,254	25.5%
2005年	23,557	2,902	12.3%	13,683	58.1%	6,972	29.6%
2010年	22,696	2,578	11.4%	12,588	55.5%	7,530	33.2%
2015年	21,666	2,322	10.7%	11,205	51.7%	8,140	37.6%
2020年	20,545	2,140	10.4%	10,236	49.8%	8,169	39.8%
2025年	19,502	2,133	10.9%	9,512	48.8%	7,857	40.3%
2030年	18,579	2,215	11.9%	8,755	47.1%	7,609	41.0%
2035年	17,657	2,328	13.2%	8,065	45.7%	7,265	41.1%
2040年	16,768	2,351	14.0%	7,351	43.8%	7,066	42.1%
2045年	15,885	2,257	14.2%	6,994	44.0%	6,634	41.8%
2050年	15,049	2,165	14.4%	6,709	44.6%	6,176	41.0%
2055年	14,252	2,069	14.5%	6,565	46.1%	5,619	39.4%
2060年	13,539	2,005	14.8%	6,401	47.3%	5,133	37.9%

推
計
値

- ・総人口は2060年で13,539人になると予測され、2010年から2060年までの減少率は約40%となっています。
- ・2010年から2060年までの減少率を3区分別にみると、生産年齢人口(15～64歳)が49.1%と最も大きく、次いで老年人口(65歳～)が31.8%、年少人口(0～14歳)が22.2%と予測されます。

◆参考：人口の将来推計－パターン4（国手引き シミュレーション2）



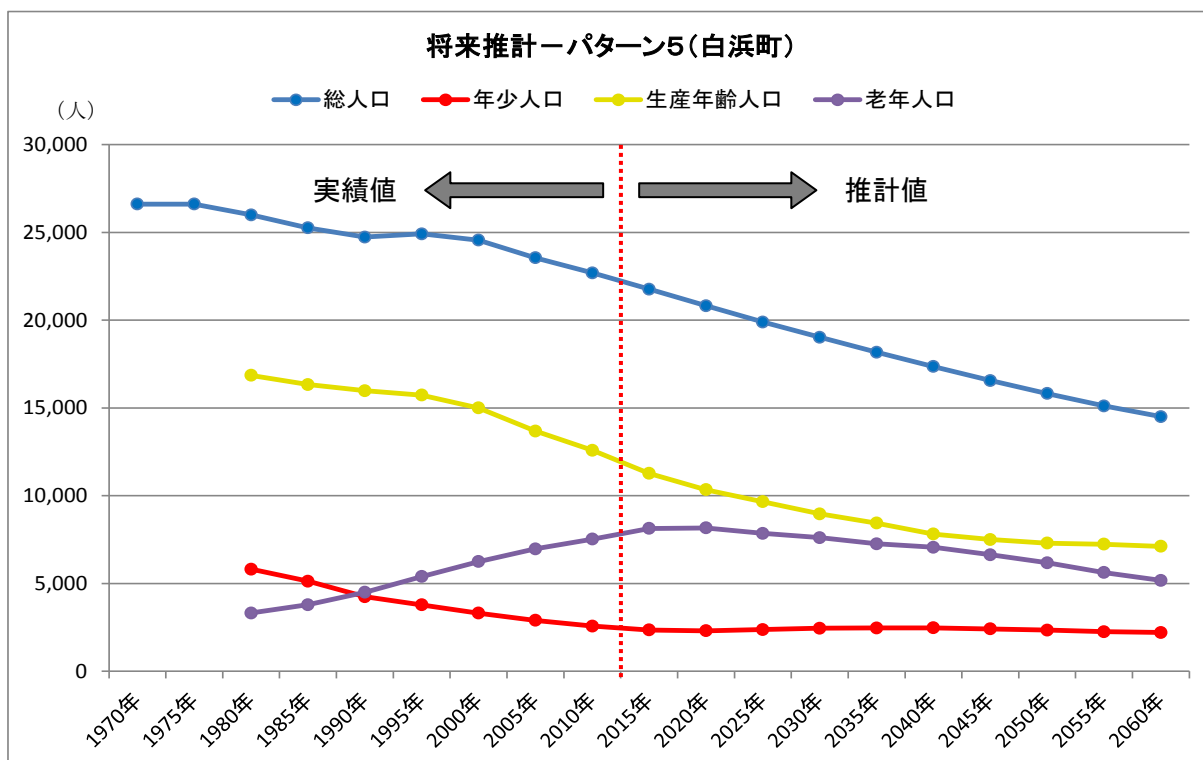
※2010年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値

	総人口 (人)	年少人口		生産年齢人口		老年人口	
		人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)
1970年	26,612	—		—		—	
1975年	26,617	—		—		—	
1980年	26,001	5,818	22.4%	16,859	64.8%	3,324	12.8%
1985年	25,257	5,134	20.3%	16,332	64.7%	3,791	15.0%
1990年	24,736	4,250	17.2%	15,987	64.6%	4,499	18.2%
1995年	24,916	3,788	15.2%	15,731	63.1%	5,397	21.7%
2000年	24,563	3,310	13.5%	14,999	61.1%	6,254	25.5%
2005年	23,557	2,902	12.3%	13,683	58.1%	6,972	29.6%
2010年	22,696	2,578	11.4%	12,588	55.5%	7,530	33.2%
2015年	21,713	2,342	10.8%	11,404	52.5%	7,967	36.7%
2020年	20,645	2,180	10.6%	10,607	51.4%	7,858	38.1%
2025年	19,665	2,216	11.3%	10,009	50.9%	7,440	37.8%
2030年	18,836	2,333	12.4%	9,389	49.8%	7,114	37.8%
2035年	18,018	2,486	13.8%	8,838	49.1%	6,693	37.1%
2040年	17,243	2,552	14.8%	8,281	48.0%	6,410	37.2%
2045年	16,539	2,484	15.0%	8,115	49.1%	5,940	35.9%
2050年	15,919	2,406	15.1%	8,034	50.5%	5,479	34.4%
2055年	15,350	2,317	15.1%	8,090	52.7%	4,943	32.2%
2060年	14,879	2,274	15.3%	7,983	53.7%	4,623	31.1%

推計値

- ・総人口は2060年で14,879人になると予測され、2010年から2060年までの減少率は約34%となっています。
- ・2010年から2060年までの減少率を3区分別にみると、老年人口（65歳～）が38.6%と最も大きく、次いで生産年齢人口（15～64歳）が36.6%、年少人口（0～14歳）が11.8%、と予測されます。

◆参考：人口の将来推計－パターン5（町独自推計）



※2010年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値

	総人口 (人)	年少人口		生産年齢人口		老年人口	
		人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)
1970年	26,612	—		—		—	
1975年	26,617	—		—		—	
1980年	26,001	5,818	22.4%	16,859	64.8%	3,324	12.8%
1985年	25,257	5,134	20.3%	16,332	64.7%	3,791	15.0%
1990年	24,736	4,250	17.2%	15,987	64.6%	4,499	18.2%
1995年	24,916	3,788	15.2%	15,731	63.1%	5,397	21.7%
2000年	24,563	3,310	13.5%	14,999	61.1%	6,254	25.5%
2005年	23,557	2,902	12.3%	13,683	58.1%	6,972	29.6%
2010年	22,696	2,578	11.4%	12,588	55.5%	7,530	33.2%
2015年	21,764	2,351	10.8%	11,274	51.8%	8,140	37.4%
2020年	20,826	2,312	11.1%	10,346	49.7%	8,169	39.2%
2025年	19,895	2,379	12.0%	9,659	48.5%	7,857	39.5%
2030年	19,026	2,452	12.9%	8,965	47.1%	7,609	40.0%
2035年	18,172	2,468	13.6%	8,438	46.4%	7,265	40.0%
2040年	17,357	2,476	14.3%	7,815	45.0%	7,066	40.7%
2045年	16,561	2,419	14.6%	7,507	45.3%	6,635	40.1%
2050年	15,820	2,343	14.8%	7,297	46.1%	6,179	39.1%
2055年	15,119	2,257	14.9%	7,237	47.9%	5,625	37.2%
2060年	14,507	2,211	15.2%	7,115	49.0%	5,181	35.7%

推計値

- ・総人口は2060年で14,507人になると予測され、2010年から2060年までの減少率は約36%となっています。
- ・2010年から2060年までの減少率を3区分別にみると、生産年齢人口(15～64歳)が43.5%と最も大きく、次いで老年人口(65歳～)が31.2%、年少人口(0～14歳)が14.2%と予測されます。